



自分の良さをアピールする

日本の社会では自分を人前でアピールすることはあまり良しとされない風土があります。そのために必要以上に自分を卑下しがちです。日本ではそれが美德とされ好ましいこととされてきました。しかし国際社会の中では、日本が損をしてきた一因でもあります。

下の表を見ると、アメリカや中国の若者に比べて日本人の若者の意識の違いが顕著に表れています。国際社会などと言わないまでも、日常生活の中でも例えば就職試験の面接だとか、職場内での仕事面等でただ控えめにしているだけではダメな場面があります。いざとなったときに自分をきちんと表現でき、自己主張することは必要です。

確かに日本の社会では、いつでも自己主張や自分をひけらかすようなタイプは嫌われますが、かといっていつも自分を出せないタイプでも困ります。

人それぞれに良さを持っているものです。日本人はもっと自分のそうした良さに自信を持っていかなくてはいけないように思います。そのために普段から自分の良さを見つめそれを磨いていくことが大切です。そしていざとなったら、きちんと自分を表現していくことが大切でしょう。

高校生の未来意識に関する調査 日米中比較

表1 私は他の人々に劣らず価値のある人間である

	日本		アメリカ		中国
	1980年	2002年	1980年	2002年	2002年
1.よく当てはまる	7.7	11.0	33.0	60.7	73.1
2.まあ当てはまる	21.8	26.6	53.5	28.6	23.3
3.あまり当てはまらない	20.5	46.3	4.3	6.8	2.4
4.全然当てはまらない	7.7	15.5	0.7	2.9	0.6
5.なんとも言えない	42.0		5.0		

2002年5月(財団法人日本青少年研究所)



地元の企業に感謝

二次募集への応募が少しずつ進んでいます。二次募集で合格した生徒も3名となりました。まだまだ残っている人は大分いますが、すでに二次募集の見学に行っている人も10人弱になってきています。そんな中で、地元の企業さんに本当に助けられているなということを最近つくづく感じています。

すでに二次募集で合格した生徒は皆地元の企業です。また先日も地元のある企業さんに求人をお願いをした折、出来たら3月まで待って欲しいと言われましたが、現在の困窮した実情をお話し無理なお願いをしたところ、快く求人を頂きました。



やはり地元を支えられた本校であり、こうした地元の企業に対して感謝の気持ちで頭の下がる思いとなりました。だからこそきちんとした生徒を送りたいとも思いました。今回合格した皆さんも、決して自分の力だけで合格しているわけではなく、地元の支えもあることを肝に銘じて欲しいものです。その意味でも入社後安易に会社を辞めるようなことだけは避けて欲しいものです。